



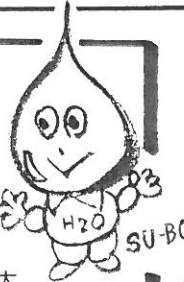
県央かわら版

第 8 号

平成25年5月10日発行

発行者

一般社団法人県央研究所



水道水に塩素を入れずに供給

大分県佐伯市の一部の地域で4月26日、殺菌のための塩素が入られていない状態で水道水が供給されていたことがわかりました。

佐伯市によりますと、今は塩素を入れて供給されていて、これまでに健康被害などは報告されていないということです。26日午前9時ごろ、佐伯市弥生の弥生学校給食センターの職員から「水道水から塩素が検出されない」と佐伯市役所に連絡があり、市の職員が水道水の施設で調べたところ、水の中に殺菌のための塩素が入られていないことがわかりました。佐伯市によりますと、水道水に塩素を入れるための施設のホースが詰まっていたのが原因で、およそ7時間後の午後4時には復旧したということです。塩素が入っていない水道水は佐伯市弥生の一部、536世帯に供給されましたがこれまでのところ住民の健康被害などの情報は無いということです。

水道水には1リットルあたり0.1ミリグラム以上の塩素を入れて、大腸菌などの細菌を除去するよう法律で定められています。
(NHK ONLINE 4月26日配信より)

ダニ媒介性疾患で実態調査 ワクチン開発目指し 厚生労働省

ダニ媒介性疾患「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」について、厚生労働省は今年度から3年計画で本格的な実態調査を実施することを決め、4月24日の厚生科学審議会感染症部会に報告した。

調査は国立感染症研究所や長崎大、北海道大などが参加し、国の科学研究費補助金で行われる。患者が出た地域で他に感染者がいらないか調べたり、ウイルスを持つマダニの生息状況を確認したりする。基礎研究を行い、ワクチン開発を目指す。

SFTSはウイルスを持つマダニにかまれて感染し、6日～2週間で発熱や嘔吐などの症状が出る。同省によると4月18日までに8県で計13人が感染し、うち8人の死亡が確認されている。

(時事通信4月24日配信)

鳥インフルエンザ情報

「H7N9型」指定感染症へ

強制入院も可能

中国で鳥インフルエンザの感染が広がっているのを、厚生労働省は四月二十四日、H7N9型を感染症法に基づき「指定感染症」に指定することに決めた。厚生科学審議会感染症部会が承認した。これにより、患者の強制的な入院や就業制限などの措置が最大2年間取れるようになる。近く閣議決定し、五月上旬の政令施行を目指す。

感染症法は、致死率や感染力などの危険度に応じて感染症を1～5類に分類し、各分類に応じて患者に行える措置を定めている。指定感染症はこれとは別に生命や健康に深刻な被害を与える恐れのある緊急時に迅速な対応をするため指定する。これまでH7N9型は4類で、汚染場所の消毒などの対策しか行えなかった。

指定感染症への指定で、感染に疑いのある人に健康診断を受けさせたり、患者を入院せざるを得ないほか、接客業や食品加工業など感染を広げる可能性が高い仕事については、休業の指示も可能となる。従わない場合の罰則規定もある。指定は制約が伴うことから原則1年間で、必要に応じてさらに1年延長される。

指定感染症への指定は、新型肺炎（SARS）、H5N1型の鳥インフルエンザに続き3例目。

(産経新聞 4月25日 配信)

鳥インフル、新潟県が電話相談窓口

中国でH7N9型鳥インフルエンザウィルスの感染が拡大していることを受け、新潟県は5月1日、健康対策課に電話相談窓口を設置した。潜伏期間を踏まえ、「中国から帰国後10日以内に発熱などの症状が出た場合、早めに相談してほしい」としている。ゴールデンウィークで中国の渡航者や帰国者が増えることに備えた。電話相談では最寄りの医療機関の案内や人混みを避けるなどの注意事項を伝える。国内で感染が確認された場合、県は泉田裕彦知事をトップとする対策本部を設置する。相談窓口は午前8時半～午後5時15分
025 (280) 5200 土日、祝日も受付ける。
(新潟日報5月1日配信より)

異物混入事故

学校給食に金属片

児童が発見／相模原

相模原市教育委員会は22日、市立淵野辺東小学校で給食の米飯に金属片と見られる破片（長さ約2センチ、幅約4ミリ、厚さ約1ミリ）が混入していた、と発表した。5年生の男子が給食を食べる際に見つけた。米飯を口にせず、担任教師に報告して分かった。

市教委学校保健課によると、破片はリング状で一部が欠けていた。米飯を調理し配送した委託業者の工場を調べたところ、洗いの排水溝から破片の残りが見つかった。

この委託業者はこの日、市内7校約4700食分を納入したが他に異物混入の報告はないという。同課では23日、同業者による委託を中止し、原因などを詳しく調べる。（神奈川新聞4月22日配信より）

異物混入：給食牛乳に金属粒子

機械摩耗で？ 三重県 菟野町

三重県菟野町の小中学校4校で4月19日の給食で出された紙製牛乳パックに、ステンレスの粒子とみられる異物が混入していたことが20日分かった。町教委は健康被害がないか調べるとともに、四日市市の納入業者に再発防止を指示した。

町教委学校教育課によると19日午後、学校で飲み終えた牛乳パックを洗ったところ、底に黒い異物が付着していたとの連絡が学校側からあった。町教委が町内の小中学校全7校を調べた結果、計4校で同様の例が確認された。異物が見つかったパックの報告数は「数件」から「多数」まであったという。納入業者は、町教委に、牛乳の殺菌工程でステンレス部品が摩耗し、粒子状になってパックに混入した可能性があるかと回答した。町教委では体調を崩した子どもがいなかったか、保護者から確認している。（毎日新聞4月21日配信より）

今年度県所が担当いたします。

三條新聞 5月2日付

今年度も放射性物質検査

学校給食の三條市独自で民間に
食材約30品目

三條市では今年度も、給食用食材の放射性物質検査を行い、学校給食の安全性に努める。

三條市では市内の保育所や小中学校の学校給食、食費は約七十七万円。で使用する三條産農産物について、昨年度から民間の検査機関に委託して、農産物の生育状況をみながら適したタイミングで市独自の放射性物質検査を行っている。

昨年度は四月二日から（燕市小高）が検査を請け負い、計三十四回にわたり、キヤベツ、小松菜、もやし、鶏卵、豚肉、ホウレン草、キャベツ、アスパラ、ニラ、ブロッコリー、タマネギ、ジャガイモ、ブドウ、ナシ、ダイコン、大

皆さまでからの情報の提供を

お待ちいたしております。

県央かわら版では食品・環境等を中心に情報を発信しております。取り上げていただきたいものや、旬な話題等がありましたらお気軽にご連絡ください。

一般社団法人県央研究所 県央かわら版事務局

電話 (0256) 46 8311

FAX (0256) 46 8310

E-mail info@kenoh-labo.or.jp